



CASE STUDY

WETセンサー

クロックハウスファーム、ケント

WETセンサーを使用して、イチゴとラズベリーの大量生産における栽培条件と灌漑効率を最適化します。

クロックハウス農場は、英国メイドストーンから数マイル南にあるケントのなだらかな丘陵地帯に位置しています。広大な250エーカーの農場では、イチゴ、ラズベリー、ブラックベリーなど、さまざまな果物を栽培しています。

園芸の著名なイノベーターであるクロックハウス農場は、1990年代後半にいちごの卓上生産を採用した最初の商業栽培者の1つです。2008年以降、同社はDelta-T WETセンサーを使用して生育状況を監視しており、毎週何千もの測定値を記録しています。

農場長のニック・デッペ氏は、農場全体でWETセンサーの使用状況を監督しています。彼は、この機器の使用方法と理由について次のように説明しています。

「WETセンサーは、基質水分とECを迅速かつ簡単に測定します。これらの指標は、常に果物を可能な限り健全な状態に保つために不可欠です。」

「週に一度、農学者と会って、それぞれの果樹培地の水分率とEC値の7日間の目標を設定します。その後、現在のレベルを（毎日）記入し、合意した目標レベルと比較できるシートを作成します。」



農場マネージャーのニック・デッペが、チームがどのようにWETセンサーを使用しているかを説明します。



「このアプローチにより、水分とECの状況を継続的に監視し、目標を達成し、欠陥があればすぐに対処することができます。これは、ラズベリーなどの果物にとって非常に重要なことです。ラズベリーは、生育条件が最適でないと数時間で劣化してしまう可能性があります。」

ニックは、WETセンサーを使って測定を行う7人のスタッフからなるチームを監督しています。彼の推定によると、チームメンバーはそれぞれ1日に少なくとも60回、つまり農場全体で約500回の測定を毎日行っていることになります。



ニックはさらにこう説明します。

「果物の品質と収穫量を最適化することは、クロックハウスファームにとって明らかに最優先事項です。ECと水分レベルを時間ごとに正確に把握することで、変化する土壤条件に迅速に対応できるデータが得られます。」

「WETセンサーが提供するデータの即時性は私たちにとって価値あるものであり、優れた精度だけではありません。WETセンサーがもたらす利点は、常に最適な栽培条件が整っているという自信を与えてくれるだけでなく、灌漑レベルを下げる(農産物の品質を高めながら)ことも可能にし、不必要的水の浪費をなくし、高価な肥料のコストを削減できることです。」



WETセンサー

WETセンサーは、基質の3つの重要な特性(水分含有量、電気伝導率、温度)を測定します。

- 原位置で間隙水導電率を正確に測定
- 精密園芸および土壤科学アプリケーションに最適
- 堅牢で信頼性の高いマルチパラメーターセンサー

AT
Delta-T Devices

 旭光通商株式会社
www.kyokko.com